

第4回 市立高等学校等改革検討委員会 議事録

1 日時

令和2年(2020年)3月26日(火) 午前10時00分～正午

2 場所

熊本市役所議会棟2階 予算決算委員会室

3 委員(50音順)

出席委員：池田委員、川上委員、坂本委員、高智穂委員、田中委員、苫野委員、永村委員
福西委員、矢野委員、山川委員、吉山委員

欠席委員：荒瀬委員、野副委員

4 配布資料

資料1 会次第 等

資料2 答申案

5 次第

開会

(1) 委員長挨拶

(2) 事務局説明

(3) 答申の整理

閉会

| | |
|------------------|--|
| 〔開会〕 (事務局) | 定刻となったので、これより第4回市立高等学校等改革検討委員会を開会する。 |
| 〔会議の成立〕 (事務局) | <p>本日は11名の委員が出席しており、委員定数13名の半数以上が出席しているので、「市立高校等改革検討委員会運営要綱」第6条の規定により、本日の会議は成立していることをご報告する。</p> <p>また、同要綱第7条の規定に基づき、本委員会は公開とさせていただきます。</p> |
| 〔委員長挨拶〕 苫野委員長 | <p>今回の検討内容は、答申案をもとに議論し、答申をまとめていただくこととなっている。</p> <p>議事に移るので、進行を委員長にお願いする。 はじめに、苫野委員長からお一言頂戴したい。</p> |
| 〔委員挨拶〕 苫野委員長 | <p>早いもので今日で最終回となった。皆さんとは短い時間だったが、活発な議論を交わすことができ、仲間のような気持ちになっている。</p> <p>最初に少しお詫びしなければならないことがある。前回の議論で、今回の答申に向けてもっと具体的などころまで落とし込まなければならなかったが、議論を拡散させる方向で進行してしまった。委員の皆様には大変ご迷惑をおかけした。</p> <p>しかし、大変骨太な良い答申ができたと思う。今日さらにブラッシュアップして提出したいと思うので、よろしく願います。</p> |
| 〔議事〕 苫野委員長 | <p>では議事に移る。 意見交換に入る前に、事務局の方から資料の説明をお願いする。</p> |
| 〔事務局説明〕 | —事務局説明— |
| 〔意見交換〕 苫野委員長 | <p>これより意見交換に入るが、その前に一つお願いしておきたいことがある。 今回は最後の検討委員会なので、本日は答申案をもとに答申をまとめなければならない。</p> <p>そこで、本日は予め指定している協議事項について、一つずつ整理しながら議論を進めていきたいと思う。</p> <p>時間の制約もあるので、委員の皆様には発言の際、答申の修正箇所や修正案等を具体的に示して提案いただくようお願いしたい。</p> |
| 〔意見交換〕 苫野委員長 | <p>それでは答申の整理に入る。 まず8ページと9ページ、高校と専門学校における人材育成についての答申である。協議事項①だが、高等学校の人材育成として、9ページにあるとおり、大まかに「グローバル」「情報」「地域活性化」「芸術・スポーツ等」の四つを示している。</p> <p>「地域活性化人材」については、永村委員からはあえて盛り込まなくてよいのではという意見が、反対に坂本委員、川上委員からは重点化した方がよいのではという意見が上がっている。</p> <p>「芸術・スポーツ等人材」については、坂本委員からは強調すべきという意見が、反対に田中委員からは盛り込まなくてよいのではないかという意見が上がっている。</p> <p>また、田中委員からは「起業」は地域活性化に入れるほうがよいという意見もいただいた。</p> <p>人材育成の方向性について、他の委員の意見を伺いたい。 なお、ここで人材育成について変更をした場合には後段の「学科・コース」にも関わってくることも念頭に意見を願います。</p> |

| | |
|-------|--|
| 田中委員 | <p>まず、地域活性化についてだが、「起業」という言葉を地域活性化において取り扱った方がよいのではないかという意見を出した。熊本に関わらず、どこの地域においても地域課題に根差した起業というものが、学びの場においては題材となりうるのではないか。教育的な観点から見て、起業を地域社会と結び付けた方がよいと思った。</p> |
| 苦野委員長 | <p>田中委員としては、地域社会のところは残した方がよいということである。永村委員からは、「これは取上げていないのではないか」との意見も出ているので、趣旨等について説明いただき議論できればと思うが、いかがか。</p> |
| 永村委員 | <p>地域社会の発展の足を引っ張るような意見に聞こえてしまうかもしれないが、地域を活性化させるというフレーズを行政や私たちの世代は好んで使うが、具体的な実態を考えた時に、これを教育の中心に持ってきてよいのかとを感じる。地域の魅力を発信するというですぐ思い出すことは、色んなイベントを創ったり、ヒット商品を生み出したり、人口が増えて欲しいなど、色々あると思う。地方公務員や地元メディアの仕事であったり、個々の企業の中でも商品開発や観光プロモーションをされる方の仕事などもあるが、高校時代はもうちょっと個人個人の学びや広い視野などを入れてほしい。</p> <p>私たちベビーブームを知っている世代の視点から言うと、大量生産、大量消費、それから大量破棄の時代。これからの10代の子どもたちは、活発な経済や栄えているところのビジョンを知らないから言いにくいとも思うし、片やSDGsなどの世界的な流れからすると、色んな効率化や無駄遣いをしないとか、フードロスの問題とか再生可能エネルギーとか、人手のかかるところをなるべく技術やAIの力で効率化して、これからの人口縮小の時代をいかに効率よく乗り越えていくのかということに色んな学術や知識などを磨いて解決するという課題もあるので、そういったこととのバランスを考えると「地域の活性化」という括りにすると、少し範囲も狭いし、目標やゴールも中、短期的なので、新しい人工知能や情報化といった世界とリンクしたり、世界的なSDGs等との整合性などを考えたら、ここ10年、20年は上手くいくかもしれないが、子どもたちは40年、50年、60年生きていくので、そちらのほうの世界の流れなどを考えると少しひっかかる場所があったので、そのような意見を持った。</p> |
| 苦野委員長 | <p>坂本委員と川上委員からもご意見を伺いたい。</p> |
| 坂本委員 | <p>私がいつもこの会議で言ってきた「熊本市立ということがどういう意味なのか」「なぜ市立高校は必要なのか」「市立ならではの取組とは何なのか」ということを考えながら、高校の理念や方向性を考えなければいけないという中で、「地域社会を深く理解して、地域を活性化させることができる人材」という表現は、非常に四項目の中にあって然るべきものだと思う。</p> <p>一方で、「しごと・ひと・まち総合創生戦略」を作っていると思うが、その中では、「地域人材を育成し、定着を図ります。」ということが市の方針として出ている。地域人材というのが何かというのは、あまり深く議論されてはいないが、簡単に言えば、熊本市の地域活性化のためになる人材というのが、熊本市の総合計画に出ていることからすると、市立の高校として、地域を活性化させることができる人材という視点が入っているというのは、非常によいことだと思う。そして、四つの中ではやや強調して言うべきではないかと思っている。例えばこの「地域社会を」の前に、「熊本市にある高校として」といった具合に強調してもよいのではないか。</p> |
| 苦野委員長 | <p>川上委員の意見も伺いたい。</p> |
| 川上委員 | <p>この四つの中で、どれが一番早くできるかと言われたときに、やはり地域社会を深く理解して地域を活性化させることではないか。他の三つは、それなりの時間がかかると思う。元々そこに住んでいる人たちは、地域のことを深く知っているのだから、より深く理解する。これが一番早く進められることだと思うので、これが一番にやるべきことではないかと思った。</p> |
| 苦野委員長 | <p>今、ご意見を伺って感じたことを申し上げると、永村委員、坂本委員、川上委員の考えは対立的なものではなく、SDGs的な視点など、見ているビジョンは一緒のように</p> |

感じる。大きな幅広い視野を持ったうえで、地域人材の育成というような感じであれば永村委員も決して反対ではないという風に受け取ったが、その辺のことも踏まえて、この議題については最後に結論を見つけていきたいと思うが、ひとまずよろしいか。

(承認)

芸術、スポーツ等についてもお話いただきたいと思うが、坂本委員よろしいか。

坂本委員

「芸術、スポーツ、起業等により」の部分のその後の方が大事だと思うが、「地域に新たな価値を生み出す人材の育成」という非常にポジティブな表現がよいと思った。市立ということにこだわっているが、地域に新たな価値を生み出す人材の例示として、熊本市に優位性があると思われるのは、漫画やアニメ、ファッションなどであろう。そういうイメージが出ればよいという意味で、芸術というような表現が入っているとよいのではないか。

田中委員

芸術、スポーツに関して、特にスポーツについて危惧しているところがあり、千原台高校などでは監督の暴力行為が発覚したり、全国的に見ても部活動の行き過ぎた指導によって生徒がすごくきつい思いをしたり、大会の辞退などが起こっていることが残念で、こういう表現をしている。もし、今後、例えばコーチングについて全ての指導者が学ぶとか、指導者のアンガーマネジメントをしっかりと行っていくとか、指導者としてどうあるべきかというのをしっかりと体制作りをしたうえであれば、学校としてスポーツをしっかりと後押ししていくのもよいと思っている。また、これは芸術にも共通して言えることだが、芸術やスポーツで身を立てていくためには、すごくたくさんの方の努力や運が必要で、例えばスポーツでプロになったとしても、野球などは選手生命がある程度長いですが、サッカーになるととても短いキャリアになってしまう。その後、どういう風に生きていくか。マネープランやライフプランが必要だし、指導者になるのか、解説者になるのか、はたまた違う仕事をするのかといった、スポーツを終えた後の身の立て方というところまで踏まえて指導の方向性をしっかりと構築したうえで、生徒たちに教えることができるのであれば、可能性のある学科編成になるのではないかと考えている。

山川委員

田中委員の気持ちも分かるところはあるが、アンガーマネジメント等については、当然、教師としてこれからずっとやっていくと思うので、私も「市立ならでは」ということにこだわりがあるが、芸術、スポーツはあつてしかるべき、強調すべきところではないかと思う。教師は、指導者として今も学び続けているので、私は心配していない。

坂本委員

多分、芸術やスポーツというのは、学業だけじゃないということを言いたくて、ここに例示してあるのだと思う。また、芸術やスポーツ、起業等と並べてあるが、起業はちょっと概念が違う。地域に新たな価値を生み出すという意味では起業もあるが、この辺の文章の整理をしたほうがよいのではないか。

苦野委員長

その点は、田中委員がおっしゃっていたことと近いと思う。起業は、地域社会の方に入れるというアイデアはどうか。特に反対がなければ、そのような修正案にしたいと思う。

では、田中委員、芸術及びスポーツについて、議事録にその点をしっかりと記載するという条件付きで承認ということによいか。

地域社会に関しては、「市立ならでは」というところが非常に重要なので、これはあった方がよいのではないかということだが、これも単に地域という狭いところに目が向くのではなく、より広い時代的な、あるいは世界的な目で、ということを重視するならば原案承認ということによいか。

(承認)

永村委員

地域の活性化という表現よりも、地域社会を深く理解して、暮らしや人生など、もっと大きな目標を含ませて、よりよい社会を作っていける人材のような表現に少し広げ

| | |
|-------|--|
| | たい。 |
| 苦野委員長 | 一応、学校の基本理念として、「自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる」と一番大きなところがあるので、もう少しここを分解したほうがよいのかもしれないと思うが。 |
| 永村委員 | 広げてもらえるのならよいのではないかと思う。地域を活性化する人材というと、私の感性では限定的、短期的、中期的に聞こえる。高校生は未来が長いので、もっと広く長い目標で教育に取り組んでいけたらよいのではないかと思う。 |
| 苦野委員長 | もう少し議論したいところだが、次の議題に進まなければならないので、一旦は、事務局に検討の幅を持たせるということで、概ね原案通りで、起業に関しては一つ上の方に持っていくというような形で、皆さんの意見はしっかり議事録に残るので、今後の検討事項としていけたらと思うが、そのような形で承認としてよいか。 (承認) ありがとうございます。 駆け足で申し訳ないが、次の議題に移る。 同じく9ページの(2)から、協議事項②、専門学校における人材育成について、答申案には「地域の産業をリード」と「高度情報化社会をリード」の二つ示しているが、永村委員からは、二つの方向性を統合して「地域の産業と情報化社会をリードする人材」としてはどうかという意見が上がっている。 また、坂本委員からは「起業等により地域に新たな価値を生み出す人材」を追加してはどうかという意見が上がっている。 他の委員の意見はいかがか。 特になければ永村委員と坂本委員から意見をいただきたい。 |
| 永村委員 | 「地域の産業をリード」と「高度情報化社会をリード」が二つ並んでいるのを見て、似ていると思った。また、協議事項③の下の段でも六つあるのを絞った方がよいのではないかと言ったのも理由は同じで、箇条書きが多ければ多いほど、一つの重みが軽くなるということと、注意が散漫になるので、できたら絞り込んでいって、骨太に出したほうがよいのではないかという感覚の問題。明確な内容の違いがあれば、独立して箇条書きになるというのには、異存はない。 |
| 苦野委員長 | 地域の産業と高度情報化社会を別立てすることの意義というか、同じにするのか、分けるのとでどのような違いがあるか。 |
| 田中委員 | 地域の産業をリードする人材の育成、高度情報化社会をリードする人材の育成についてイメージしたのが、実際に飲食店を経営していて、その周りにも商売をしている人がいて、その人たちも自分も含めて、今、レジの方式がクラウド化されるなど、そういったシステムを有効に活用していくのが得意な人と、起業して、軌道に乗ってどんどん店舗を増やしていくことが得意な人がそれぞれいる。それは資質、能力の差なのだろうとは見ていて思う。私はどちらかと言えば、ガジェットを駆使して、自分のシステムをやりやすいように構築していくのが得意で、店舗を増やしていくのは自分には合わないなという意識がある。片や、ガジェットはあまり得意ではないが、その店舗をどんどん大きくしていくのが得意な人が身近にいる。なので、地域の中で、「私、ガジェット得意だからアドバイスするよ。」とか、「店舗拡大が私得意だからアドバイスするよ。」とか、棲み分けができてよいと思っているので、ここは二つ分けておいても、それぞれの資質、能力に合わせて、自分の生き方を考察することもできるだろうと思うので、二項目あることについては、私はこのままでよいのではないかと思っている。 |

| | |
|-------|--|
| 高智穂委員 | <p>私の感覚としては、地域の産業と高度情報化社会はイコールにならない。この後のことにもかかわってくるが、例えば選択肢を広げるとか、広い意味でとらえるということであれば、細かいことで分けてあった方が、誰が読んで、誰がこれに基づいてやっていくかということにもよるが、大人が考えた意見でまとめていると、これを生徒たちが見た時に、逆にわかりにくい気がするので、私は細かく分けてあった方がよいと思う。</p> |
| 苫野委員長 | <p>大事な観点である。生徒から見てわかりやすいかもしれない。</p> |
| 永村委員 | <p>私が以ていると感じたのは、地域の産業という言葉と高度情報化社会の社会という言葉ではないかと、皆さんの意見から気づかされた。</p> <p>上の項目（地域の産業をリードする人材の育成）はもっと、社会的とか、ビジネス、文系的ニュアンスを持たせて、下の方は（高度情報化社会をリードする人材の育成）、技術をリードするという感じの言葉を組み替えると、違いや、自分がどちらに向いているのか、読んだ人の理解の速度が速まると思う。地域・社会はどちらも文系のワードが入っている印象。</p> |
| 苫野委員長 | <p>地域の産業・社会というようなことが良いということか。</p> |
| 永村委員 | <p>社会をリードするというよりも、卓越した技術者を応援するなど。</p> <p>地域の産業をリードするというのは、経済界のリーダー、ビジネスを広げられるということ。そのようなことがわかりやすい言葉になったらよい。</p> <p>よって、別記については賛成。もう少しわかりやすい言葉で表現してほしい。</p> |
| 苫野委員長 | <p>これもひとまずは、事務局に幅を持たせるという返しでよいか。</p> <p>(承認)</p> <p>起業に関して、意見があればお願いしたい。</p> |
| 坂本委員 | <p>産業をリードすることも大事だが、自分で仕事を起こして、地域に新たな価値を生み出す人材ということが、ビジネス専門学校の特質として、そういうことを目指すというのは、とてもよいことなのではないかと思っている。</p> |
| 苫野委員長 | <p>15ページ、16ページに、各学科の中に身に付ける力として、「起業に関する知識」という文言が記載されている。当初から起業というものを大事にしようという議論がなされてきたが、坂本委員の意見を踏まえると、ここに落とすだけではなくもう少し上の部分に起業という言葉置いてよいのではないかと理解できるが、その点について皆さんの意見を聞かせていただきたい。</p> |
| 福西委員 | <p>高校の方も起業等ということを入れるということだったので、専門学校にも入れた方が大きな目標としてよいと思う。</p> |
| 苫野委員長 | <p>特に反対意見はないか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>無ければ、これを答申に入れることとする。文言はひとまずここに記載のものを入れる。</p> <p>続いて協議事項③、専門学校で育成する資質・能力についてである。</p> <p>人材育成の方向に照らして、「地域の産業をリードする人材」について四つ、「高度情報化社会をリードする人材」について二つ、合計六つ示してある。</p> <p>川上委員からは「熊本の歴史や風土の理解」「地域の伝統文化を守る力」以外の四つに重点化してはどうかという意見が上がっている。</p> <p>永村委員からは「新たな産業の創出」「地域の伝統文化」「AI、IoT」の三つを中</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>心に整理してはどうかという意見が上がっている。 他の委員からの意見を伺いたい。</p> |
| 田中委員 | <p>私は東京都大田区から熊本に転入してきた。故郷を離れて思うのは、故郷がよいところだったということ。 自分の地元について、小学校の部活動で、お寺の歴史や文化を教えてもらった。地域の歴史や文化を知っており、自分の地元について人に楽しく話すことができれば、周りの人も「よいところだな。」「旅行してみようか。」となり、その結果、そこに住んでみる人もいるかもしれない。 小・中学校などで学んでくると思うが、少し大きくなった段階で改めて学ぶことで、自分の郷土の良さや大事さの理解が深まるのではないか。</p> |
| 福西委員 | <p>地域の歴史や文化を踏まえることは、地域の産業のうえで大事だと思うが、他の委員が書いているように、多く書きすぎていて注意が散漫になってしまう。 永村委員の意見のように、「地域文化の〇〇」というようなまとめた書き方が頭に入る印象を持った。</p> |
| 坂本委員 | <p>「地域の産業をリードする人材」の例として、歴史や風土の理解、伝統文化等の記載は必要ない。そのことは、情報化社会をリードする人材にも必要なこと。少なくとも市立の専門学校を出る人材にはすべて必要なので、当然のこととしてどこかに書くべきではあるが、この「地域の産業をリードする人材にあっては」という例示として適当かということに違和感がある。</p> |
| 高智徳委員 | <p>しかし、理解していないと生み出すものも生み出せないのかとも思う。 その地がどんな場所で、どういうことが求められていて、何が課題でということは知っておかなければいけないことという気もする。</p> |
| 坂本委員 | <p>高校の方で書いた、地域社会を深く理解してということが専門学校でも必要。その中にこのような話が入ってくる。</p> |
| 苦野委員長 | <p>この、地域の理解や歴史等に関しては、当然のことと言えば当然のこと。もう少し上に上げるということもある。例えば「地域の産業をリードする」というところに、「地域の理解を基に」と記載したり、あるいはもう一つ上の段階に上げるということもあり得る。 六つは多いのではという意見についてはいかがか。概ねそのような意見ということでよいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>そうすると、「熊本の歴史風土」「地域の伝統文化に対して」という文言は、上に上げるというアイデアを思いついたが、反対意見はないか。15ページ、16ページの記載内容に、歴史や風土、伝統文化に関しては、「熊本・観光文化検定」という資格を取るというのもアイデアとしてある。こういったことへの理解は、妥当性があるような気がする。自分のアイデアを言ってよいのかとも思うが、ひとまずそれでいかせていただきたいと思うがよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ではこの二つを上の方に上げることで検討する。</p> <p>11ページ、12ページが協議事項④、「3校の枠組み」に関する答申だが、この部分については特に事前意見はなかったが、前回十分に時間が取れなかったので、①から④まで、一つずつ確認していきたいと思う。 マーカー部はこの協議事項に関する記載事項の中心となる箇所である。</p> |

まず、高校2校の在り方について、答申案では、市立高校の存廃に関わる事項については、市民のニーズを踏まえて、教育委員会において慎重に検討すべきとしている。
委員の皆さんから修正の提案はないか。

(意見なし)

では原案通りとさせていただきます。

次に高校と専門学校の連携・接続について、答申案では、特に専門性の高い分野について5年間の系統的な学習を行うことは有効としている。

ただし、例えば高等専門学校を設置すべきか、といったところまでは言及はしていない。

この表現等について、委員の皆さんから修正の提案はないか。

(意見なし)

では原案通りとさせていただきます。

中高一貫校の設置について、答申案では、メリットとして、グローバルな視点や探究する力の育成などが期待できることを挙げている。

ただし、設置の形態や開設時期については検討すべきとしている。

また、高校と専門学校の連携と同様に、設置すべきか、といったところまでは言及していない。

この点について修正提案等、意見はあるか。

(意見なし)

原案通りとさせていただきます。

通信制課程の設置について、答申案では、通信制の役割は大きくなっているが、必要性や他校との競合など、多角的な検討が必要であるとしている。

こちらの修正提案等、意見はないか。

田中委員

この課題については、特に問題意識を持っている。

学びが困難にある子どもたちにおいては、通信制課程が非常に重要な役割を負っているということは、日本全国そういう状況にあるというのが事実としてある。

今、感染症の問題で子どもたちが学校に登校できない状況の中で、学校に行かなくても勉強ができるという体制の構築は、急務であるのではないかと。熊本市でも学校に行かなくても勉強ができる形態を構築しつつあるのではないかと考えている。

普通の全日制であっても、いつ何時学校に行けなくなることが発生するかかわらないので、通信制課程の設置は強くお願いしたい。

こういった事態においては、通信制課程の先生や制度を、柔軟に全日制にも利用してもらい、教材を提供したり、IT機器の貸し出し、回線のサポートなど、どんな事態が起こっても子どもたちが継続的に学び続けられるような体制の構築を進めてほしい。

苦野委員長

具体的に、これに対して修正案があるか。

(意見無し)

県立の通信制がすでに一つ設置されており、サポート校も増えているということもある。そういったことも鑑みて、是非、検討してほしいという形で答申を作成できればと思う。

| | |
|-------|--|
| 永村委員 | <p>田中委員の意見に賛成である。</p> <p>災害、コロナウイルスのような状況の対策として、勉強をし続けられる、全日制と通信制を併せ持っていて、シフトが可能であるというところも学校の魅力の一つとして打ち出してはどうか。</p> |
| 苫野委員長 | <p>答申案に組み込みたい文言はあるか。あるいは一応このままにしておいて、念頭に置いておくというレベルでよいか。</p> |
| 田中委員 | <p>答申に盛り込むとしたら、緊急事態において全日制と連携が図れるような制度構築というのはあってもよいのかなと思う。</p> |
| 苫野委員長 | <p>他の皆さん意見はいかがか。</p> |
| 高智徳委員 | <p>「不可抗力によって学校に行けなくなった」というような表現はいかがか。災害や疫病などを想定したもの。行きたくても行けないといった場合に有効だというような表現があるとよいのではないか。</p> |
| 苫野委員長 | <p>他に意見が無いようなので、そのような文言を追加することとしたいと思う。文言の整理は事務局に任せようと思うがよいか。</p> <p>(承認)</p> <p>次に13ページから15ページ高校の学科・コースに関する協議事項について順に整理していく。各学科に対する意見について、探究に関する学科は不要ではという意見があるが、これまでの議論で、改革の方向性として整理した三つの特色、柱のうちの一つに「探究的な学びの推進」を掲げていることも踏まえ、他の委員の意見を伺いたい。</p> |
| 矢野委員 | <p>資料に記載がある通り、前回荒瀬委員より、探究については新学習指導要領に既に記載があるということを受け、探究を中心とする学科はあえて不要という意見を出した。これまでに何度か英会話を中心とした授業をメインとする学科の設置を提案したが、それが今回の探究を中心とする学科から離れているようだったので、あえて不要という意見を出した。</p> |
| 苫野委員長 | <p>探究を中心とする学科を記載しないことについて強く反対するという意見があればお願いしたい。</p> <p>(意見なし)</p> <p>この(ア)から(カ)は例示なので、必ずしも全てやらなければならないわけではない。いくつか学科を設置し、その中に探究コースを置くこともできるし、いずれにしても探究中心の学科は不要ということよろしいか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>ではそのようにさせていただく。重要なのは、探究を中核にしていくというのは、一番上位に記載しているので、学科がなかったとしても、コースとして設置したり、教育課程全体を通して探究的な学びを推進していくことが重要だということは、答申に盛り込むということにする。</p> <p>続いて、普通科の取扱についてであるが、第1回の議論でこれからの学校に普通科はいらぬのではないかという意見があり、アドバイザーの鈴木氏からも同様の助言があった。普通科については答申に記載していないが、13ページのアンケートを見ると、依然として普通科を含めた総合的な学科へのニーズは高い。このことを踏まえ、皆さんからの事前意見はないが、改めて確認しておく必要があると思う。皆さんの意見はいか</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>がか。</p> |
| 永村委員 | <p>必由館高校に国際コースがあるが、普通コースより少し英語の授業が多いだけという話があった。これからの普通というものは、内容としては今の教育で国際学科と言われているところくらい、外国語のウェイトが大きくなっていくと思う。</p> <p>あとは、大学に進学したい人が、受験に対応するために普通科を希望しており、受験のシステムに影響されているのではないか。名門大学のAO入試や、海外留学などの色々な選択肢に特化していくことも時代の変化に伴うものだと思うが、保護者の認識とは乖離があるのではないかと思う。</p> |
| 苫野委員長 | <p>ニーズと我々の目指したい理念のバランスは難しいところである。</p> |
| 山川委員 | <p>子どもたちを直接見て、高校受験については、自分の学びを特化していくというよりも、窓口を広げておき高校3年の中で次につながる学びを目指す子どもたちも多い。将来に幅広く繋げるという意味でも普通科という選択はありだと思う。</p> |
| 福西委員 | <p>今、山川委員がおっしゃったように、小学校・中学校の頃に決めた自分の進路で生きていける人は少なく、ほとんどの人が紆余曲折経て、よくわからないまま色々と経験して大人になっている。普通科というのがつまらないものではなく、色々な幅があり、色々な勉強をしたことが、後から思い出して新しい人生を自分で考える素養になるなど、普通科は決して悪いものではないのではと思う。</p> |
| 苫野委員長 | <p>もう少しみなさんのご意見を伺いたい。</p> |
| 田中委員 | <p>私の考えは、普通科は要らない。私自身農業高校でずっと仕事をしているが、農業高校に進学してくる子たちの多数が、仕方なく農業高校に来ている現状がある。ネガティブな理由でやってくるが、卒業するときは農業高校でよかったと言って卒業する子がとても多いのは救いである。ひるがえって普通科については国数英社理あまねく全部勉強して、一般的な学びをして、社会に出ていく準備をするということだと思うが、そういった学びをとってもやりやすいと考える子どもたちが一定数いるのは理解できる。しかし、これから大学入試の形態がどんどん変化していて、記述式が今回見送りになったが、大学入試はほとんどが今AO入試や推薦入試である。一般入試で入学するのは難関の国立大学等である。難関大学でも難問奇問が出題されたり、高校の普通の教育課程ではとても太刀打ちできないような現状、大学入試の改革がある中で、あまねくすべての科目を同じように勉強して、果たしてどんどん変わっていく大学入試の制度、または海外の留学を目指していく生徒に対して、果たして対応できるのかという危惧がある。高度経済成長の時に均一な人材を輩出するために出来上がった普通科は見切りをつけて、これからは多種多様な人材を世界に輩出するという視点のもと、世論をけん引するような、保護者たちの意識を学校の設置者の側から変えていくような、大胆な意識で設置する学科については検討していてもよい。</p> |
| 苫野委員長 | <p>ここはかなり意見が割れているところである。</p> |
| 吉山委員 | <p>小学校で4年間、中学校で5年間PTA会長をしているが、小学校の卒業式において「夢は複数もってよい、ひとつじゃなくてもよい」と言ってきた。中学校の卒業式でも同じことを言ってきたが、子どもたちの高校の入学先はほぼ普通科である。もちろん農業高校に行った生徒も何人かいる。彼らは家業が農業という子もいるし、パティシエになりたいという夢を持っている子もいる。</p> <p>子どもたちは、中学校で将来何になりたいかくらいの希望はあっても、高校で将来の希望を実現するために学んでいる。中学校では将来の希望が決まらない子が大多数である。私の子どもは高校で、農業系、医療系、アフリカに行くことなどを考えた結果、医療系を選んだ。高校でいろいろ考えて、大学、専門学校、短大等への進学を決めていくものであるから、普通科は残した方がよい。</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>苫野委員長</p> | <p>意見が割れている。これは理念で引っ張っていくか、現実に合わせていくかといったところである。</p> |
| <p>山川委員</p> | <p>中学校の進路指導で、「あなたはここしか行けない」という指導はしないと信じている。例えば公立高校に行けなくて私立高校に行く生徒にも、「そこで君は活路を見出しなさい」という指導をするので、第二希望の学校に行ってもそこで活路を見つけていくこともあるので、幅広く学びの場がある普通科は必要である。</p> |
| <p>高智穂委員</p> | <p>普通科という窓口を広げるという意味ではあった方がよい。高校に行くのが当たり前になっているが、高校に行くと決めたことで、一步進んでおり、そこで学んでみたいとか、流れで行くようになっていくが、そこもワンステップあるということを世の中が忘れていく。決まっていなくて当然だと思う。普通科という言葉に対するイメージを変えるのであれば、例えば総合科。県立大学の総合管理学科のように、いろんなことを視野に入れた総合的な学科。市立高校ではいわゆる普通科を総合学科とする。</p> |
| <p>苫野委員長</p> | <p>少し戻るが、今日は地域というワードがテーマだったが、とても漠然としている。地域の意味をウェブで調べると、「ある観点から見た一帯のかなり広い土地」という意味が出てきた。答申案にある地域という言葉の意味は全部違う。だから地域という言葉は今から全部変えるのは難しいと思うが、地域が何を指すかということまできちんと書いてあると、誤解なく意図したものが伝わる。一個一個の言葉の印象は大事だ。</p> |
| <p>苫野委員長</p> | <p>普通科に関して、今高智穂委員がおっしゃったのは、ある意味折衷案でもあるし、あるいは建設的な第三の意見でもあるとも言えるが、そこに落としどころを持っていくか。</p> |
| <p>田中委員</p> | <p>既に、総合的な学科を設置するというものが記載されている。これは、1年生の時は普通科のような教育課程で、2年生以降単位制のようになるイメージなので、普通科的な要素も入っていると言える。なので、選択肢としては、原案通りいくか、普通科を書き込むかとなるが、今の議論のポイントは、今後の未来を見据えていく理念や制度をしっかりと打ち出していくということ、もう少し現実に合わせていった方がよいのかということ、総合学科がここに記載されているのでこれでよいのではないのかということ。それと、個人的に思うのは、普通科をここに大きく載せてしまうと、今までとあまり変わらないものになってしまう。そういう意味では、どう書くべきかは非常に悩むところである。個人的には、(カ)の総合学科があるので、これでよいのではないのかと思うが他にご意見があれば是非お願いしたい。</p> |
| <p>田中委員</p> | <p>私は総合学科の卒業なので、少しお話しすると、総合学科は1年生の時は国語や数学等の必修科目が主で、2年生以降に系列を選択して自分の興味に合った内容について学んでいく。そういう意味では1年生の時は普通科のようなものとも言える。ただ、1年生の時に自分の人生について考える「産業社会と人間」という科目があり、ライフプランを考えるという機会がある。私も、普通科と表現するのではなく、総合学科と表現することについては大いに賛成である。かつては、総合学科の学校の入試倍率が厳しいといったこともあったが、今はだいぶ認知されるようになってきており、この段階で総合学科を設置するということについて、保護者からの理解は得られやすいのではないのかと思う。</p> |
| <p>苫野委員長</p> | <p>原案の(カ)に記載されているということによいか。</p> |
| <p>永村委員</p> | <p>県内市内の既存の普通科の高校で、ネームバリューで生徒を集めることができる学校があるので、あえて総合学科など新しい魅力を打ち出していく方がよいのではないのか。</p> |
| <p>川上委員</p> | <p>名前を変えればよいというような話になっているように感じるが、どんな能力をつけさせるか、どんな学科を作るかという議論をしている中で、普通科を無くそうというのは違う気がする。名前を変えても結局普通科に変わらないのではないのか。</p> |

| | |
|-------|---|
| 苦野委員長 | 普通科と総合学科は制度的にも違うものである。先ほど説明したように、1年生の時は普通科のような感じだが、2年生以降はそれぞれ違うことを学ぶことになる。 |
| 川上委員 | ここに挙げられているものを総合学科にまとめてしまったところで、結局やることは変わらないのではないかと。 |
| 苦野委員長 | ここに記載されているのは、あくまで例示であり、ここにあるものに決めるということまで求めるものではない。選択肢をどう作っていくかという中で、普通科を盛り込むかどうかということについて、普通科は原案通り、なしとして、総合学科は選択肢に入れ、総合学科を設置する場合は、最初は幅広く学んで、その後(ア)から(エ)までに記載されているようなコースに進んで行くというようなイメージはどうか。 |
| 川上委員 | 問題ない。 |
| 池田委員 | 今、舞台類型というところで、演劇を教えているが、パンフレットを読んでわくわくしたが、思っていたものと違うという生徒が必ずいるので、転科ができるなど、その逃げ場があるとよいと思う。普通科も、大学に行ってからやりたいことを見つける人のためにあってもよいのではないかと。名称を変えるのも面白いと思った。 |
| 苦野委員長 | 13ページに「ただし、様々な探究的なカリキュラムにおいて、生徒は各学科・コースを横断できるものとする。」という文言が入っており、こちらでよいか。 (承認) 他の学科についても意見を伺いたいが、いかがか。 (意見なし) 特に無いようなので、次の専門学校に移りたいと思う。15～16ページだが、こちらについても特に事前意見はなかったが確認していこうと思う。それぞれの学科について、答申に盛り込む必要がないものや、表現の修正が必要なものなど、意見はないか。 (意見なし) では、原案通りとする。 時間に余裕があるので、議論が足りないところに戻ろうと思う。協議事項①②③あたりでもう少し意見があるという方はいないか。 |
| 永村委員 | 1回目か2回目かの委員会で、公の教育が受けられない外国出身の子や、日本語が母国語でない子が増えていくのではということを示したが、そういう多様性をどう受け止めるかについて具体例が不十分のような気がする。 |
| 苦野委員長 | 確かに、多様性の包摂という観点についてはそれほど強調されていないように感じる。 |
| 永村委員 | 基本的にそういう子たちはバイリンガルで、良い方に動けば熊本の社会にとってすごい強みになるが、一方で十分な教育を受けられないことも懸念される。そういった子の受け入れを積極的に行っている公立の学校がないようなので意見させてもらった。 |
| 福西委員 | 6ページの真ん中あたりに、「学校や家庭、地域、さらには諸外国の人々も含め、多様な他者と協働することが重要」と書かれており、永村委員がおっしゃったような諸外国の人だけでなく、多様な他者がそこにいてくれるだけで、その地域にとってはよいことだということを、言葉として入れることができればと思った。 |

| | |
|-------|---|
| 苦野委員長 | <p>学校の基本理念に「多様な人々と協働しながら」という文言はあるが、学校自体がこういった多様性を包摂するというニュアンスとは少し違うかもしれない。</p> |
| 田中委員 | <p>17ページの改革を支える取組・条件整備に「個に応じた教育の実現について」という項目が設けられており、その中で外国にルーツを持つ生徒についても触れられているが、この課題について、条件整備として取り扱うだけでよいのかということは議論の余地があると思う。ただ、高等学校段階または専門学校段階において外国にルーツを持つ子どもたちのことで問題となるのは、入試の形態についてある程度配慮が必要となることだと思う。合理的配慮という枠組みになるかもしれないが、学科の編成や新しい取組というより学校全体として、不登校の子もそうだが、どう学びをサポートしていくかだと思う。</p> |
| 苦野委員長 | <p>「個に応じた教育の実現について」という項目でしっかりと明記はされているので、原案通りとするか、もう一つレベルを上げるかについては議論になるかもしれない。</p> |
| 永村委員 | <p>他所の都市で起こっていることが熊本でもいつ起きてもおかしくない。先回りして物事を考えるのは無駄ではないと思う。</p> |
| 苦野委員長 | <p>ひとまずここに文言が含まれているので原案で整理するということでよいか。</p> |
| | <p>(承認)</p> <p>もう少し時間があるがいかがか。</p> |
| 福西委員 | <p>この答申を見て楽しみに思う人はたくさんいると思うが、最終的に市教育委員会が信頼される組織でないといけないと思う。色々な不祥事の話などを聞くが、そういうところはきちんと信頼してもらえるようにしてほしい。</p> |
| 苦野委員長 | <p>それもとても大事なテーマだと思う。今後、信頼関係を作っていくためにも対話の機会を意識的に持っていこうということが盛り込まれているので、そういったご指摘も重要だと思う。</p> |
| 田中委員 | <p>先日、寺脇研さんと前川喜平さんが関わられた「子どもたちをよろしく」という映画を観てきた。困難な状況にある子どもたちが取り上げられている映画だったが、その中で、困難な状況にあって大人たちから手ひどい扱いを受ける子たちが登場していて、観ていて「この段階でこういう言葉かけをされていたらこうはならなかったのではないか」と感じるシーンがいくつもあり、大人や周りで関わっている人の言葉で子どもの人生が大きく変わっていくということは映画でなくともあると思う。</p> <p>私も高校で仕事をしていて言葉にはとても気を使うが、子どもたちへの言葉かけは本当に人生を左右すると思う。先ほど、私に関わる子どもたちの中に「この高校しか行けないからこの高校に来た」という子がいたという話をしたが、もしかしたら中学校の先生は、「君はこの高校が向いているからここにしたら？」という提案だったのかもしれないが、その子どもにとってみたら、「お前はこの高校にしか行けないからここに行け」と言われたように認識したかもしれないなと感じた。「子どもたちをよろしく」という映画のタイトルにも表れているように、教育に携わってなくても、身の回りにいる子どもたちがどういう状況にあるのかというのを周りの人たちが見つめて、「よろしくされているのだ」という自覚を持って健やかな成長を見守っていきたいと感じているので、自分も実践したいと思う。</p> |
| 苦野委員長 | <p>ありがとうございます。第1回の議論から、そこをしっかりと土台にしようということが確認されたので、すごく大事なポイントだと思う。私もここでの議論を踏まえて、答申案8ページに文言を盛り込んでいただいた。「人材」と言うとても強い表現になるので、温かい感じを全体から出したいという思いから加筆させてもらった。そこを一番の土台として考えていきたいと思う。</p> |

| | |
|-------|---|
| 池田委員 | どのくらいの難易度の高校にするのかということを考える。例えば東大に行く人がいるような学校なのか、色んな人を受け入れる門戸の広い学校なのか。そのあたりも目線を持っておいた方がよいのでは。 |
| 福西委員 | 自分のイメージだと、みんな入れるけれど、勉強したい人は海外の大学にも行ける、大学には進学しないけど幸せに生きていきたいという子のためにもある、というような、門戸が広いけど中での成長度合いはそれぞれ、という感じとっていたが、入試段階のレベルなどはわかっていなくて申し訳ない。 |
| 池田委員 | そこを目指す人とか、勧める先生のポイントとか、中に入ってからついていけるのかとか、そういったところも関わってくると思う。 |
| 苦野委員長 | 大枠としては9ページにある、どのような人材育成が求められるか、また、どのような資質・能力の育成が求められるか、であるから、すべてそこから逆算するような考え方になると思う。 山川委員は最も生徒に近い立場なので意見を伺いたい。 |
| 山川委員 | 自分としては、キーワードは「将来につなげる」として、次年度学校づくりを行っていくと考えているので、高校に行って、将来につなげる、イメージできる、そんな高校や専門学校とを感じる。 |
| 苦野委員長 | 多様性を包摂するということがあるので、一元的に偏差値だけが評価の基準になるものではないと思う。 |
| 池田委員 | 今必由館はとても楽しい学校というイメージがあるが、その雰囲気を残すのか、楽しい空気のまま世界に飛んで行けたり、東大にも行けるけど職人にもなれる、みたいな高校であれば、夢のような状態だと思う。実際にそういう学校もあるのかもしれないが、どうしても受験というところで、どれくらいの学校をつくるのかという視点があるのかなと思う。 |
| 山川委員 | 第1回で話したことだが、子どもたちが高校選択する時にはやはり自分の能力に合ったところ。最終的には、行きたいところはあるけれども、行けるところで自分の活路を見出していくという現実がある。高校には難易度があると思うが、そこを取っ払ったところで、先のことを見据えて「そこに行けば将来につながる」「魅力いっぱい」という、そんな高校をこの会をベースに構築していけたらよいと思う。 |
| 苦野委員長 | まさにおっしゃる通りで、それがこの検討委員会の使命でもある。今ある序列的なヒエラルキーではなく、次の新たな価値を高校教育につなげるものだと思うので、山川委員がおっしゃった方向性が、我々が目指すビジョンだと思う。 |
| 坂本委員 | 委員になってから必由館高校や千原台高校、総合ビジネス専門学校のことを色々調べてみて、熊本市民でありながら必由館の名称の由来である「必由堂」のことも知らなかったわけである。かなりの思いを込めてこの名前をつけられて、長い歴史の中で伝統を作られて教育方針や建学の精神をもってやってこられた。そこを目指して多くの子どもたちが入ってくると思うので、より良くしたいという思いで我々も議論したが、この伝統などを捨て去ることなく、必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校のOBにもすごい人たちがたくさんいるので、そういう中に今の市立3校があるということをお忘れないように、「変えてしまわないといけない」という議論ではなく、よい土台の中に更にこれが続いていくためにはどうするのか、という議論をしたということを残していただきたい。 |
| 永村委員 | 委員長に質問であるが、学校の価値を測る指標は偏差値とか就職率とかの他にあるのか。情報も多く色んな夢や理念が膨らんでいて、新しい市立高校のキャッチフレーズやぎゅっと凝縮したイメージがまだぼんやりしている。例えばブータンという国では |

| | |
|-------|--|
| | <p>GDPと違って国民幸福度というのがあり「住みやすそうな国」といったイメージがある。そんな感じで、実際に入った生徒が満足しているとか、幸せであるとか、そういった尺度で学校の価値を測ることができるような物差しがあれば、もっと分かりやすく新しい市立高校の良さを世間に広めるようなマーケティングの工夫もできるのではないかと思う。</p> |
| 苦野委員長 | <p>とても大事なことである。学校教育や子どもたち、市民の幸福度調査は色んなところで行われているが、日本の子どもたちはOECD加盟国では最下位である。そこにいる子どもたちがどれくらい幸福かということと、将来市民になった時にどれくらい満足した生活を送れているかということは、これから大事な指標としてより認知されていくのではないかと思う。少なくとも、偏差値が高ければ幸せになれるというフィクションはもう多くの人は信じていないと思う。</p> |
| | <p>「伝統」のところについて盛り込んだ方がよいという意見は坂本委員からあるか。</p> |
| 坂本委員 | <p>特にないが、そういう学校なのだということを我々が認識しているということを議事録に残していただきたい。</p> |
| 苦野委員長 | <p>大事な指摘である。 他に意見がなければ確認をしていきたい。</p> |
| 苦野委員長 | <p>8ページまでは修正なく、原案どおりとする。</p> |
| | <p>9ページの協議事項①「高等学校における人材育成の方向性」について、大きな変更点は、「起業」の部分の一つ上の行に移動する。それ以外は基本的には原案どおりとさせていただきます。</p> |
| | <p>続いて専門学校における人材育成であるが、大きな変更点は、新たな柱を追加して「起業等により地域に新たな価値を生み出す人材の育成」を三本目の柱とする。</p> |
| | <p>続いて協議事項③については、「熊本の歴史や風土の理解」「地域の伝統文化を守り伝える力」の一つ上のレベルに上げる、何かしらの形で盛り込み直す、元の項目からは削除する、ということによいか。</p> |
| | <p>(承認)</p> |
| | <p>続いて10ページから11ページは変更なし。 12ページについて、文言は事務局にアイデアを頂きながら考えるが、「災害や疫病等で学校に行けなくなった場合に全日制と連携して」といった内容の文言を入れるということによいか。</p> |
| | <p>(承認)</p> |
| | <p>13ページ、14ページについては、「探究を中心に据えた学科」については削除とし、(カ)を(オ)に変更する。</p> |
| | <p>それ以外は変更なしとするがよろしいか。</p> |
| | <p>(承認)</p> |
| 〔閉会〕 | <p>ご協力のおかげで大変よい議論ができた。これで本日の議論を終了したいと思う。今回をもって本検討委員会は終了となる。</p> |
| 苦野委員長 | <p>答申の提出については3月31日火曜日の13時30分から、教育委員会において行う予定である。</p> |

なお、本会議の議事録については前回同様、事務局にて作成の後、委員の皆様へ送付されるので、ご確認いただくようお願いする。

では、これをもって第4回 市立高等学校等改革検討委員会を閉会する。

〔謝辞〕

それでは、熊本市教育委員会・遠藤教育長が謝辞を申し上げる。

遠藤教育長

長時間にわたり活発にご議論いただき誠にありがとうございました。答申案を見せていただいても、おかげさまで非常に盛沢山で、この中から実際にどういう学校にするかを選んでいかなければならないわけですが、皆様の期待の詰まった、読んでいてとてもワクワクする答申案ができたのかなと思っています。

今日の議論を聞いていまして、私たちがつくりようとしている学校は、大多数の子どもたち向けの学校ではないわけです。そもそも、熊本県内に一学年1万数千人いる中で例えば必由館と千原台の二校合わせても500人ぐらいですから、数パーセントしか来ないわけです。専門学校だともっと少ないわけです。そういう、少数の中の少数向けの学校だということをまず認識しておく必要があると思っています。大多数の子は県立学校か私立学校に行くわけで、ではなぜその中の市立学校というものが必要なのか、どんな人向けなのかということです。

今日のご議論でもありましたように、例えば中学校の段階ですでに目的意識ややる気に満ち溢れたごく少数の子どもを対象にする学校なのか、逆に、不登校だったり何をしてよいかわからずいたりする子ども向けの学校なのか、いろんな選択肢があって、それをこれからどういう風にしていくのかというバトンを渡していただいたという風に思っています。

今日の議論で、どんな学校がよい学校なのか、指標として目指すべきなのかという話がありましたが、私のイメージで言うと、「入った時には何をやってよいかわからなかったけれど、出る時にはやる気に満ち溢れている」という、入った時と出る時の差が、一つの学校の評価だと思っているので、ここに行って良かったと思ってもらえる学校というのは、入った時と出る時の差をいかに良いものにしていくか、大きなものを生み出していくかということだと思いますので、そういった面も踏まえてこれからどんな学校の中身にしていくのかということをお共々とも考えさせていただきたいと考えています。

この会議の特徴は、会議の場以外でも皆様に色々なことを宿題のようにやっていただいて、そういったやりとりでも皆様にはたくさんご意見をいただけたと思っていますので、皆様からの提言を受けまして、より良い学校づくりをしていきたいと思っています。

ぜひ、これからも新しい学校が実現するまで、そしてそれからもご指導いただけますとありがたいと思っていますので、ぜひ見守っていただければと思います。

それから、傍聴に来ていただいたオブザーバーの皆様にもありがとうございました。皆様のご期待にそえるような良い学校づくりをしていきたいと思っていますので、今後とも応援のほどよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

(了)